

私の縮小生活、人生二毛作、農的生活

－収穫物の交換を通じた人間関係作り、ネットワークの形成－

農業労働をすると、収穫物の交換を通じた人間関係を作り上げることができる。他の仕事でも、この物を通じた人間関係作りはできるであろうが、そのためには金銭がたくさん必要となる。第二の人生では、勤めていた頃のように金銭が毎月入ってくる事は難しいのだから、農作物の交換は人間関係作りに最適なのだ。

人間は、一人では生きていけない。他の人との対話が、心の交流が必要である。そして、この心の交流は、何ものかの物や事の交換を通して成り立つものである。心と心の交流をストレートに求めても、それはうさんくさく思われるだけである。

私の大学の時の友人は詩や小説作りを通して、他の人との関りを図ろうとしている。しかし、これは、高度の仕事なのだ。ハイレベルの質のある文章にしないと、人の心を動かす事は、難しい。つまり、彼は、売れない自称小説家である。他の人が振り向いてくれないことを、よく嘆いている。そして、生活苦を語る。その時、私は心の中でこう言っている。「生活が苦しいのであれば、働け。額に汗して、働け。その労働を通して、その職場の人間関係を観察して、その人間模様を一つの事例として、そこにお前の思いを書き込め。」と。でも、家に閉じこもるだけで、働きには出ない。

このような作品作りに比べて、農業労働は肉体的にはしんどい事もよくあるが、労働の成果は、生産物は確実にできる。季節が巡れば、胡瓜に、カボチャ、そして西瓜と次々と実ってくる。この実りを手にすることは、楽しいものなのだ。

大学時代のもう一人の友人は、それまでしていた仕事をやめた後、親の介護をしている。結婚していないので一人で介護をしている。精神的にしんどい日々を過ごしている。それで、どうしても姉妹にもその介護の分担を求める気持が起こる。でも、姉妹は結婚して子供もいるので、それぞれの家庭の問題を抱えている。そのため、自分の期待しているようには、姉妹は動かない。そのため、不満が積もる。親の介護のしんどさを理解して欲しくても、思ったほどの理解はなかなか得られないのだ。そして、理解して欲しいと思えば思うほど、姉妹の心は離れていく。

そこで、私は、彼に次のように話した。心で心を求めるのではなくして、介護の合間の農作業で取れた野菜を送ると飲ばれる。そうすると、飲ばれて会話が成立して、「今度、会いに行くから。」と言ってくれるものである。品物を通して会話が始まり、自分の心と相手の心が少し触れ合うことができ始めるから、と。でも、彼は、この意味がなかなか分からない。そして、田畑があるのに、草が生えてくると除草の為にトラック

ターで耕作するのに、農作業を嫌う。そして、不満が日々少しずつ増えてくることになる。そして、「年金が少ない。生活が苦しい。」等と言って、マスコミの言動の通りの政府批判・政治批判を繰り返す。

親しい人間関係では、物の贈与と返礼を通じた交換関係が大きなウエイトを占めている。このようなことは、親子関係でも、そして兄弟関係でも、まして親戚関係の維持には、これは欠かせない。友人知人の関係でも、なんらかのこのようなことは必要なのです。近所関係でも、収穫した物を提供すると喜ばれ、私の家で栽培していない作物や私の知らなかった情報がいただける。

このような関係を維持・発展させるためには、何ものかを所有していなくてはできないのだ。お金がたくさんあればそれを買うことでできるが、普通はそうならない。それで農作業をすることで、物と事の交換を通して人との関係ができ始める。だから、私は、第二の人生として田畑で働くことにした。私は、生業としての農業をするのではなくして、「農的生活」を始めたのだ。農民というより、百姓である。農地を介して、いろいろなことをする人なのだ。

贈与すれば、何物かが返ってくる。カボチャがお菓子になって来る。収入が少なくても、私の家の食卓には、人からいただいたお菓子がいつもある。いただいたお菓子を、90歳に近い母は喜んで食べている。農業による金銭収入が少しでも、精神的にはそれなりのゆとりを享受できている。これは、素晴らしい生活である。お金など、そんなに必要ないのだ。年収が少なくても、十分、生きていけるのだ。米と野菜はたくさんある。

でも、ここで注意しなくてはならないことがある。このような贈与と返礼に基づく関係を互酬的關係と言うが、私がここまで述べてきたこの関係は、私が新たに作り出した関係である。だから、私の日々の「縮小生活」を支える大切なものとなっている。それに対して、旧来からの村落共同体としての諸関係には、大きな問題がある。

昔からの複雑な関係の網から、人は簡単には抜け出ることができないものである。そのために個人がその関係に苦しむこともある。そうなると、苦しめから逃れるためには、その網をはさみできり裂くこともしなくてはならない。そして時には太い鉈(なた)で粉碎の努力をしなくてはならない。

でも、その関係の網のすべてを切り裂くことはできない。すべてを切り裂きバラバラにしてしまうと、それはもうその人の人格の破壊となる。だから、「根」にからめ取られて苦しみながらも、その「根」と関って作り直していくしかない。

私もこの地で精神的な異邦人として暮らしているながら、この地の伝統風俗に問題点を感じながらも、この関係の網をすべて切り裂くことなどできない現実がある。この村落共同体としての諸関係では、私はやはり精神的異邦人なのである。